

第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略実績報告書(令和2年度)【概要】

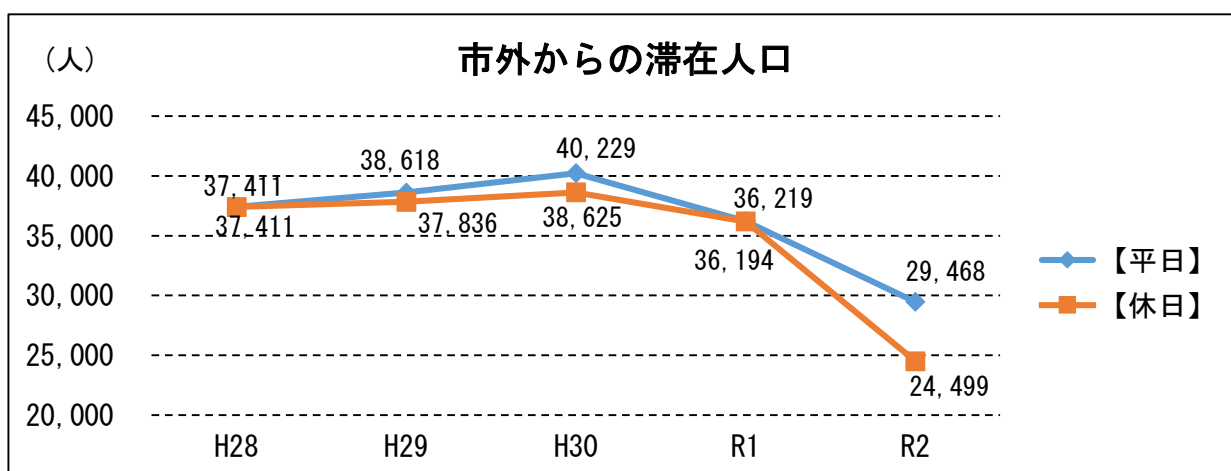
【基本目標1 まちの魅力を向上させ、新たなひとの流れをつくる】

1 数値目標

指標	評価
市外からの平日の滞在人口	×
市外からの休日の滞在人口	×

【指標の評価について】

- ◎：目標値達成
- ：現況値を上回っている
- △：現況値と同等の数値
- ×
- ：数値が判明していない
- ※ 現況値：平成30年度



2 具体的施策（7施策25事業）

施策	重要業績指標 (KPI)	評価					
		主要要因 (CSF)					
		◎	○	△	×	—	計
戦略的な情報発信	◎	1	2	0	1	0	4
創業を希望している市民への支援	○	0	0	1	1	0	2
産業の振興と雇用の促進	○	0	1	1	2	1	5
時代のニーズに対応する農業の創造	○	0	2	2	0	0	4
個性豊かな観光施策の推進	×	1	3	1	0	2	7
利便性の高い公共交通網の形成	×	0	1	0	0	0	1
にぎわいと活力ある魅力的なまち・まちづくり	○	0	2	0	0	0	2
合計	—	2	11	5	4	3	25

3 総論

【総括】

- 交流人口の増加の視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「滞在人口」については、新型コロナウイルス感染症の影響で数値が減少している。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

【施策別】

- 「戦略的な情報発信」については、新型コロナウイルス感染症関連の情報発信を行っていたため、KPIの目標値を達成するとともに、現況値を上回った事業が多い。
- 「創業を希望している市民への支援」については、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが開催できない等の理由で現況値を上回る事業はなかった。
- 「産業の振興と雇用の促進」については、現況値を上回る事業は1事業のみであった。
また、令和2年度には、市内全体の産業振興等を計画的に進めるため、産業振興ビジョンの策定に向け検討を始め、令和3年度に策定する予定である。
- 「時代のニーズに対応する農業の創造」については、現況値を下回る事業はなかった。
- 「個性豊かな観光施策の推進」については、イベントの中止やかたくりの湯の休館・時短営業など新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、KPIの実績値が現況値を下回った。
- 「利便性の高い公共交通網の形成」については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、KPIの実績値が現況値を下回った。
- 「にぎわいと活力ある魅力的なみち・まちづくり」については、全ての事業で現況値を上回っている。

4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 多くの方がLINEを利用しているため、LINEの活用を検討いただきたい。
- SNSやYouTubeを活用いただきたい。
- 創業希望者の中では空き店舗や空き家などの物件を探してほしいとの声が多くあるため、創業したい方が空き店舗等を活用できる仕組みを作れば、空き店舗活性化事業になると思う。
- 他自治体では、空き店舗リストを作成している事例もあるので、そういった仕組みづくりを行うか、若しくはNPOや市民団体を立ち上げる方法もあるので、検討いただきたい。
- 地域ブランド認証事業のコンセプトとイメージについて、共通認識を持つため、見える化した方が市民への訴求効果も高いと思うのでお願いしたい。
- 体験型市民農園について、課題に記載のある農業者の理解を得ることが難しいとあるが、農業者に対するインセンティブがないと感じるため、目標達成は困難である。

【基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える】

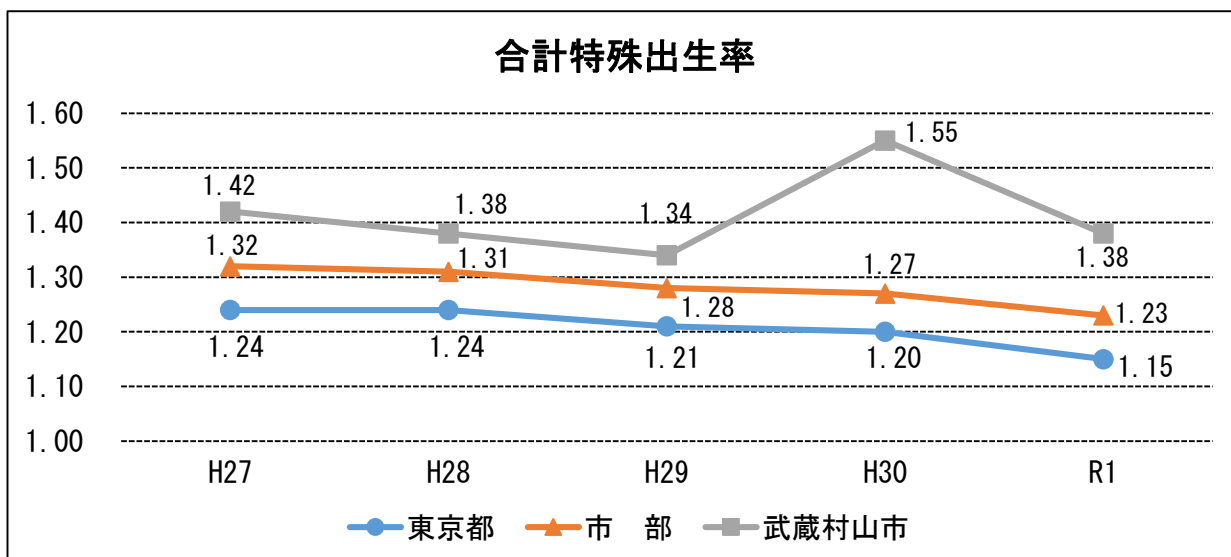
1 数値目標

指標	評価
合計特殊出生率 (令和元年度：1.38)	— (×)
「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う」人の割合	—

【指標の評価について】

- ◎：目標値達成
- ：現況値を上回っている
- △：現況値と同等の数値
- ×：現況値を下回っている
- ：数値が判明していない
- ※ 現況値：平成30年度

※ 合計特殊出生率については、例年、冬頃、区市町村別の数値が公表される。そのため、() 内の実績値は前年度の数値である。



2 具体的施策（4施策20事業）

施策	評価						
	重要業績指標 (KPI)	主要要因 (CSF)					計
		◎	○	△	×	—	
結婚・妊娠・出産・子育てへの支援	○	3	2	2	1	0	8
子育てしやすいまちづくり	—	1	1	1	2	1	6
子どもの知力・体力の向上	◎	0	0	0	1	3	4
教育環境の整備	×	0	0	0	2	0	2
合 計	—	4	3	3	6	4	20

3 総論

【総括】

- 年少人口及び将来的な生産年齢人口の増加を図る視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「合計特殊出生率」については、現況値と比較すると減少しているが、49区市で2番目の数値である。(令和元年度実績)
- 数値目標に掲げる「武蔵村山市は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思う」については、計画策定時のアンケート調査項目であり、令和2年度はアンケート調査を実施していない。
- 現況値と比較すると、多くの事業が現況値と同等又は下回っている。

【施策別】

- 「結婚・妊娠・出産・子育てへの支援」については、新型コロナウイルス感染症の影響下でも多様な保育サービスを継続し、約半数の事業が現況値を上回っている。
- 「子育てしやすいまちづくり」については、KPIが計画策定時のアンケート調査項目であり、令和2年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
また、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる等の理由で現況値を下回る事業もあった。
- 「子どもの知力・体力の向上」については、KPIが目標値を達成した。
その他事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で学力調査や体力テストが中止となり、数値の算出ができなかった。
- 「教育環境の整備」については、新型コロナウイルス感染症の影響等で全ての事業において、現況値を下回った。

4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- ハグはぐ・むらやまの取組について、非常に良い取組であると思う。目標も達成しているため、積極的に周知していただきたい。
- 市役所男性職員の育児休業取得率の向上について、現況値と比較し、数値が向上しているため、非常に良かったと思う。
- 地域活動を行える場がもう少し増えると良いと思う。
- 様々な分野で空き家の活用は検討されているため、空き家バンクなど市で前向きに取り組めると良いと考える。
- 行政側から貧困家庭の支援を必要とする対象者情報を提供することは難しいため、民生委員や地域包括支援センターなど地域で活躍する方々の情報の活用や届けてもらうような取組が必要である。
子ども食堂については、まちの食堂として実施していたり、子ども限定や貧困の子ども限定など様々な実施形態があるが、限定してしまうとフードバンク同様、周りの目を気にして行けないということがあるのかもしれないため、限定しない取組や周りから見られない仕掛けが必要であると考える。
- 行政と地域の団体や方々と連携し、貧困家庭の支援ができると良い。
- 絵本の読み聞かせ事業についても、オンラインなどを検討すると良いと考える。

【基本目標3 誰もが安心して暮らし続けられる地域をつくる】

1 数値目標

指標	評価
これからも本市に住み続けた と思う人の割合	—
20歳代の転出者割合	×

指標の評価について

◎：目標値達成

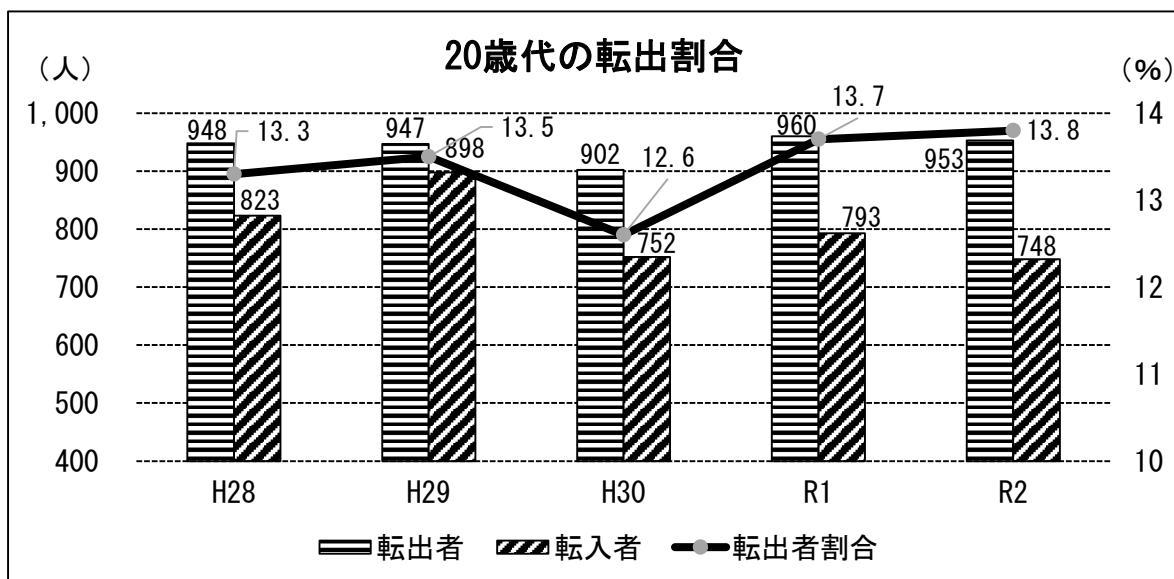
○：現況値を上回っている

△：現況値と同等の数値

×：現況値を下回っている

—：数値が判明していない

※ 現況値：平成30年度



2 具体的施策（3施策14事業）

施策	重要業績指標 (KPI)	評価					
		主要要因 (CSF)					
		◎	○	△	×	—	計
交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり	—	0	0	0	2	0	2
安心して暮らせるまちづくり	◎	1	1	0	0	0	2
健康でいきいきと暮らせるまちづくり	○	1	5	0	4	0	10
合計	—	2	6	0	6	0	14

3 総論

【総括】

- 「住み続けたい」と思うまちづくりを進める視点から施策を展開している。
- 数値目標に掲げる「これからも本市に住み続けたいと思う人の割合」については、計画策定時のアンケート調査項目であり、令和2年度はアンケート調査を実施していない。
- 数値目標に掲げる「20歳代の転出者割合」については、転出者が増加し、転出者割合も増加した。
- 現況値と比較すると、半数以上の事業が現況値を上回っている。

【施策別】

- 「交通利便性や買い物環境の向上に向けたまちづくり」については、KPIが計画策定時のアンケート調査項目であり、令和2年度はアンケート調査を実施していないため、数値が不明である。
また、新型コロナウイルス感染症の影響等で全ての事業で現況値を下回った。
- 「安心して暮らせるまちづくり」については、防災対策を計画的に行ったため、KPIの目標値を達成するとともに、全ての事業で現況値を上回った。
- 「健康でいきいきと暮らせるまちづくり」については、約半数の事業が新型コロナウイルス感染症の影響等で現況値を下回った。
また、現況値が未実施の事業については、いずれも事業実施に向けて準備が進んでいる。

4 外部有識者（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会）からの意見

- 市内循環バス運行ルートの見直しについて、費用対効果のこともあるので、基本的には賛成である。廃止路線の地域であるが、乗合タクシーの利用ができるようになるので、地域の人にとってはメリットの方が大きいと感じている。
市外の方が廃止路線の地域に来ることが難しくなるため、地域活性化は難しくなるかもしれない。
- お互いさまサロンについては、新型コロナウイルス感染症の影響下でも設置数が増えていている。地域ではニーズがあると思うし、介護予防、高齢者の健康づくりに力を入れているのがうかがえた。
- 防災士資格取得助成事業について、資格取得後に市の防災イベントや訓練でリーダーをもらうなど仕組みづくりがないと取得希望者は増えないと考える。
- 地域生活支援拠点等整備事業について、保護者が入院した場合等、グループホームでは短期の受入れをしてもらえない。ショートステイ施設もあるが、なかなか入ることができない状況である。短期の受入れの取組は必要であると感じているため、ぜひ御検討いただきたい。
- シルバー人材センターについて、会員数を増やしていく方向のようであるが、企業の定年退職後の雇用については、企業の方で受け皿が増えてきているため、シルバー人材センターの会員数を増やす必要がないと思っている。シルバー人材センター設立時よりも必要性が薄れてきていると感じており、企業や団体が高齢者を受け入れる体制が整うことが一番望ましいと考えている。
- 会員数については増やしていく必要があると考える。70歳を超えると企業での雇用も終わってしまうが、それ以降も働きたい方もいると思う。また、シルバー人材センターだからやっていただけのこともあるので、ありがたい存在である。